

1188
5

祇曲たをぬれぐさ序

い毫まハ月ひま待もち。夜よ啼な。来き會あハれん願ねが

在ざ真ま子こ。氣きと久く。浮う查き仙せん人じん秘ひ術じゆつ乃の毫ま

此こ中ちゆう乃の品しん。當たう理り而に妙めう。其その産さんよてならるる

のをとあらへん。いま毫まれん真まとと一いつ層そう人じん所しよ

よみえんハ何なに乃のむむ川がはじじたたるるももななくくと

くくななりりいい。秘ひすすべべくく

一揚枝と二三
 かつぎ。此半
 又ハ揚の先
 立をやう扇
 みて勤働す
 一豆二粒と口
 へ入。あの目方
 あす。供
 と目のこへ
 よせず。麻れ
 ちりよておん
 なり。

仕や此伝
 真
 り



一扉
 あり
 と
 う
 ら
 一
 肉
 ち
 ち
 り
 の
 こ
 こ
 に
 す
 り

仕や此伝
 真
 り



一はかぐもを
 此内にてり
 然ち落た
 ちて飛ん
 一残を又み
 人の腕に
 ちる人
 にきみと
 へ。又の
 けくお
 残れぞ
 小と
 とま



茶椀に
 をな
 つて
 てこ
 盆
 碗
 へう
 盆
 碗



けん 焼らう
 そく など
 と 吹けし
 たら まら
 と のれと
 とを すす
 一 小刀 まで 天
 の 糸 まで
 り

ニ
 一 ね
 一 も
 一 の
 一 じん
 一 き
 一 あり



あり 中に
 火と 焼に
 する。
 箱 まで も 紙
 まで も 火を
 とり 吹消
 て 刃 子 子 子 子
 ず に あり あり

二
 一 ね
 一 も
 一 位
 一 吹
 一 ね
 一 あり
 一 す



貫つる後つらぎの
つを三人に
ひのちろせ
ときまんかうま中よ
と後をぬいて
ろろる。
一えながと
玉子ごよす
仕やうと
よあり



一えながとよあ
とけて誇あと
あつハする。
一えれう糸う二う筋う
とけて誇あ
又文字あとあり。
一えれ紙と火
よあがりて。
文字とかん
る。



たむけ茶と

一白紙よすき
とぬりて。白
文字をか
る。
一水此より
文字とすゆ
る。
一笹の葉と
歟よする
る。

三品
了も
傳更
よき
あ
利



一紙と餅或ハ粟
をどよする。
一神清にあり
入忽そ命へ
ゆてつる素麴
とあはる。
一砂とあや
へ入るきませ
く。かのどく乾
けり砂よす
ちるる。

三品
仕ぬ
傳更
真
あ
り



一 小き紙子字
 と書きまらめて
 おれと。嗅ぐ
 見て何の字と
 一 ちる。り。
 一 算盤子ては
 りと知たる。り。
 又子とたいて
 も知らたなり
 傳文とくよ
 あり



一 十二の多し
 歎此通力即
 産のさめら
 一 扇の和化即
 産れ芽めき
 一 繩の吉申元
 て切。又申。ち
 と切。幾。乃。は。て
 本のとく。つ。ぎ
 の繩。す。り。り。



一 茶碗のたぐ
 ね縄とたね
 ちうと下城
 ひすんぐツツ
 きするる
 一 茶碗より
 入まてらるる
 つるる
 一 茶碗とたね
 よつけるる

三不
 仕
 此
 秘傳
 あり
 八



一 茶碗とまき
 よつけ火とと
 りるる
 一 茶のつなぎ
 ちぎれぬる
 一 茶碗より
 入まてらるる
 一 火とみ
 へ入るる
 りる。



一をな紙まで
 人形を作り動
 うし踊らす。
 一楊枝とくま
 とがり人玉を
 のせ。ニツまは
 あるくする。
 一をながし強引
 さた。○ 是が
 どのをめ。人よ
 ひねらすよ。
 ニツまとがゆり

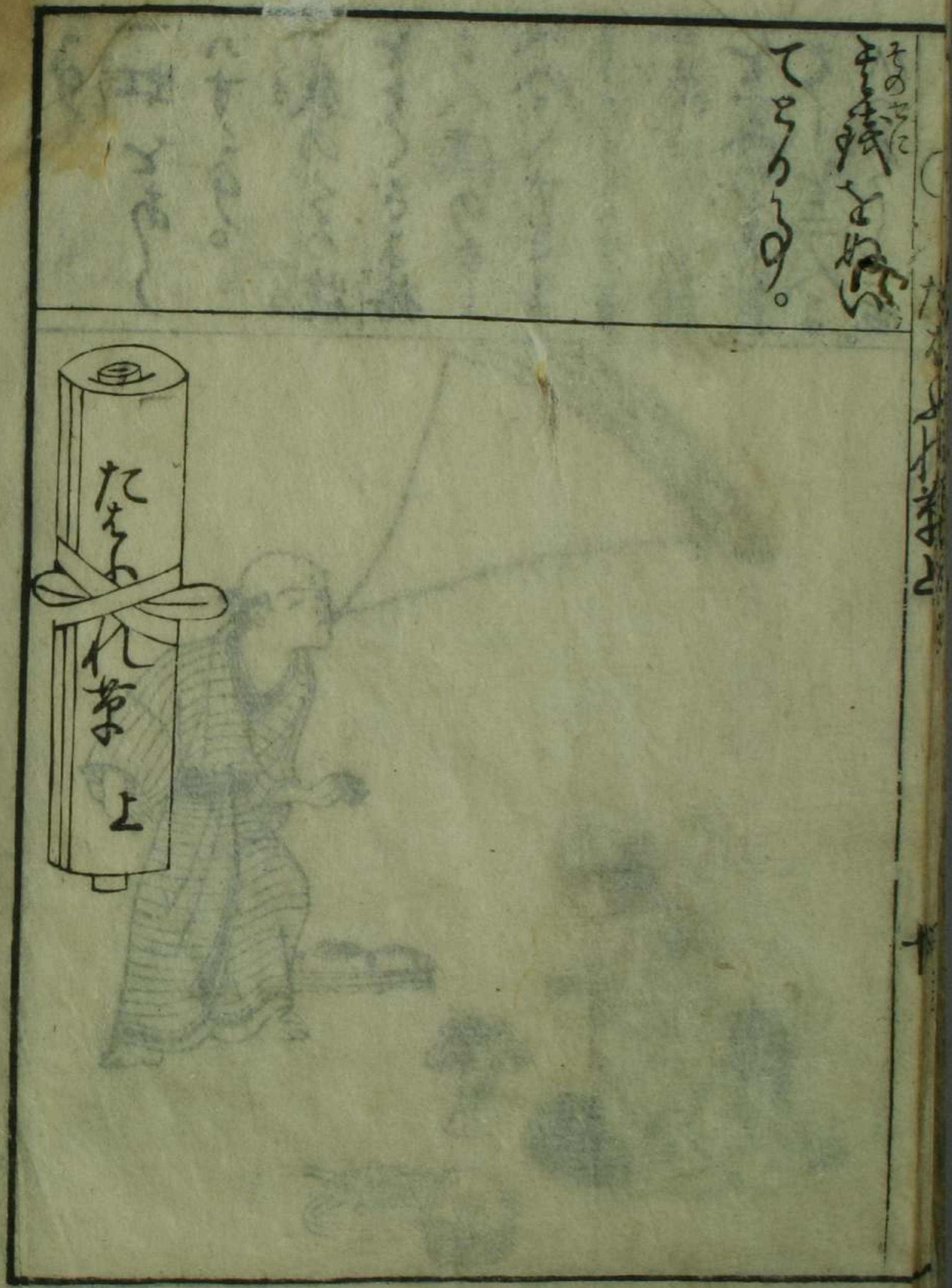


一虹とあり
 ハする。
 一熊のくろ焼ヤキ
 とそくざよ拵こしら
 ら人酒おかしの中
 へまぐすさま
 ドくろごきす
 一徳ざりに残
 と一あつたお
 ろしと二人よ
 ひつろし。白雲。



だれか
 九

そのまに
たまは
てらりる。



たまはれ茶上

